

ふれあい・いきいきサロン助成事業
令和2年度サロンアンケート調査結果

コロナ禍における サロン活動



はじめに

本紙は、前橋市社会福祉協議会が令和2年12月に実施した、市内ふれあい・いきいきサロンを対象とするアンケート調査について、調査結果をまとめた資料です。

本来であれば12月に実施回収後、令和3年1月中旬に活動者の皆様へ資料を共有する予定でしたが、アンケート調査回収期日前後より全国的な新型コロナウイルス感染症再拡大がみられ、サロン活動の調査時と状況が大きく異なってしまったことから、資料を共有する時期を見合わせていました。皆様のご協力をいただきながら、資料共有が遅くなり申し訳ございません。

本紙にはアンケート調査結果のほか、コロナ禍におけるサロン活動事例、またサロン休止中の代替活動や今後のサロン活動についての提案を掲載しています。新型コロナウイルス感染症に対する群馬県のガイドライン（社会経済活動再開に向けたガイドライン）も踏まえながら、参考としてご活用ください。

また、前橋市社会福祉協議会では地区担当職員を配置し、サロンの再開や代替活動検討についての相談に対応しています。主体となる住民の皆さんと一緒によりよい地域福祉活動を推進していますので、随時ご相談ください。

社会福祉法人
前橋市社会福祉協議会

目次

概要 サロンアンケート結果 実施状況

P1

高齢者 サロンの工夫と対策

P3

子育て サロンの工夫と対策

P7

事例 コロナ禍における サロン活動と代替活動

P9

提案 コロナ禍における これからのサロン活動

P11

概要

サロンアンケート結果

実施状況

本紙の調査結果は 令和2年12月に実施したアンケートの結果です

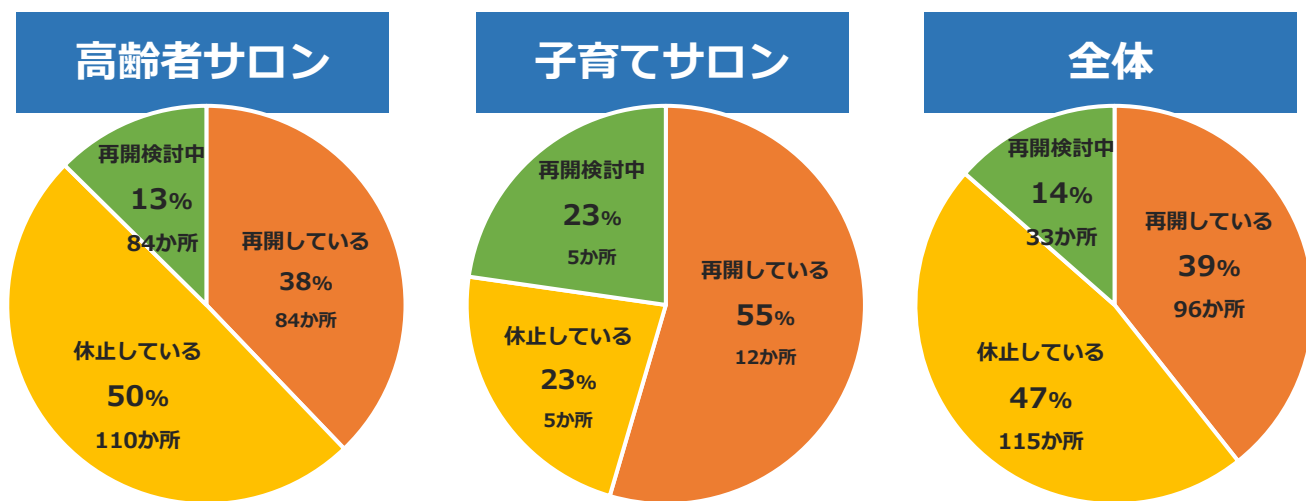
(1) 回答率

サロン区分	回答数	回答率
高齢者サロン	222 / 245	90.61 %
子育てサロン	22 / 26	84.62 %
障害者サロン	1 / 1	100.0 %
全体	245 / 272	90.07 %

※ アンケートを配布したサロンは前橋市社会福祉協議会「ふれあい・いきいきサロン助成事業」の助成金交付を受けている団体に限る。

※ 障害者サロンは助成金交付を受けている団体が市内1件のみの為、活動特定を避ける観点から以降の区分別集計から除外する。

(2) 再開状況



※ 複数回答については他設問の回答内容・記載内容を確認し類する項目に振り分けられるものとする。

ポイント

- 県警戒度（経済活動再開に向けたガイドライン）が『3』だった令和2年12月頃には、およそ4割ほどのサロンが活動を再開していました。ただし、年末年始の感染再拡大により再度休止に立ち戻るサロンも多かったとみられます。
- 高齢者サロンは、子育てサロンに比べ再開率が低くなっています。新型コロナウイルス感染症が、高齢者や持病のある方について重篤化リスクが高い傾向にあることから、高齢者サロンが比較的再開しにくい状況にあると考えられます。

(3) 再開時期について

時期	休止なし	R2 5月	R2 6月	R2 7月	R2 8月	R2 9月	R2 10月	R2 11月	R2 12月
回答数	2件	2件	9件	29件	10件	9件	17件	15件	4件

(2)で「再開をしている」と答えたサロンは、令和2年7月～11月に再開している。

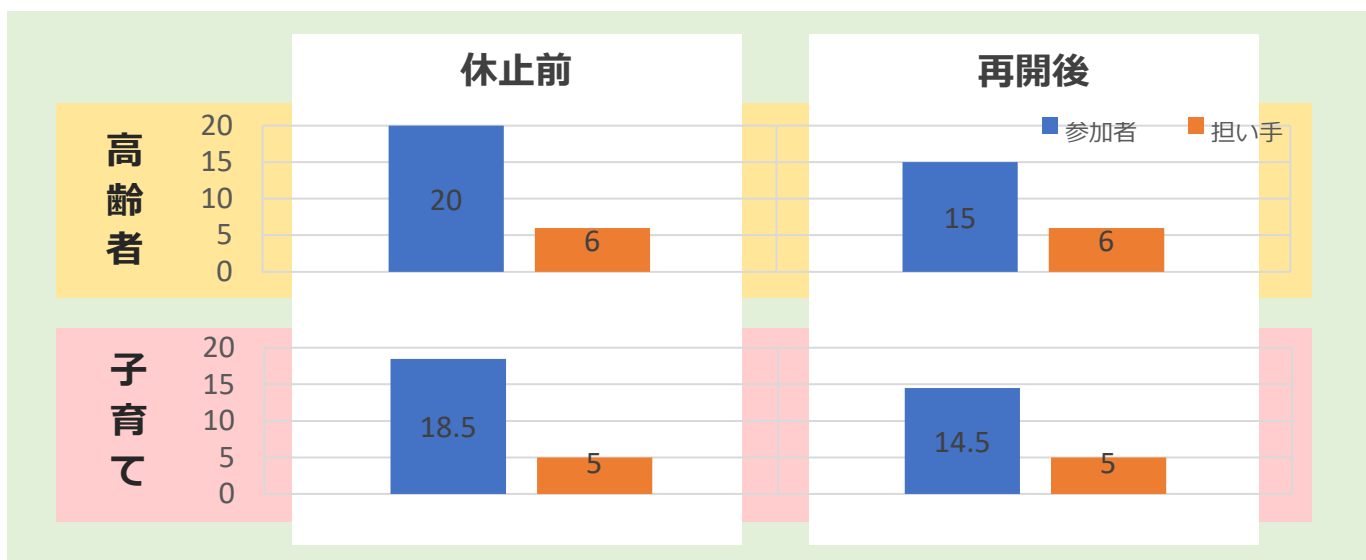
ポイント

- 令和2年7月は全国・県内においても感染症拡大が多少落ち着いていた状況でした。サロン活動も近隣の県・市町村の感染者数等を見ながら、活動を再開していることがうかがえます。

範囲	R2.7月 平均感染者数	R2.8月 平均感染者数	R2.9月 平均感染者数	R2.10月 平均感染者数	R2.11月 平均感染者数	R3.12月 平均感染者数
全国	569.39 人	1036.42 人	506.47 人	572.39 人	1583.37 人	2804.06 人
群馬県	1.19 人	8.06 人	8.70 人	6.42 人	10.23 人	35.74 人

【参考】NHK 特設サイト新型コロナウイルス <https://www3.nhk.or.jp/news/special/coronavirus/>

(4) 再開をしたサロンの参加者数の変化



ポイント

- 参加者数は再開後のほうが減少傾向にあります。再開をしていたサロンのなかには、参加者を2グループに分けて実施したり、会場を二つに分けたり、人数制限（三密回避）に関して工夫をする活動が見られました。接触回数や接触人数を減らすために、コンパクトな規模で活動を行う必要があります。
- 担い手や参加者に関わらず、感染を避けるため、サロンを再開させたとしても参加したくない人もいます。強制的な活動でなく、無理なく自由に参加するか選べる雰囲気をつくるのが重要です。

(1) 取り組んでいる基本的な感染症対策

(令和2年12月時点で「再開している」と答えたサロン)

体調確認

- 自宅で事前に検温
- 会場に入る前に検温
- 体調が悪ければ参加しない
- 健康状態や体調を参加者名簿に記録

消毒

- 会場入り口に消毒液を設置し、手指消毒促す
- 会場を消毒する（テーブル・椅子・手すり・用具・マット・ドアノブなど）

会場の換気

- 定期的に部屋や廊下の窓を開ける
- 大きな部屋、空気の通りが良い部屋、屋外へ会場を変更する

人同士の間隔を空ける

- 座席の間隔を空ける
- ソーシャルディスタンス（フィジカルディスタンス）を保つよう呼びかけ

飛沫感染対策

- マスク着用
- 予備のマスクを用意
- 必要に応じてフェイスシールドを使う
- 相向かいの会話は避ける
- 対面型座席配置を同一方向を向く教室形式の座席配置へ
- 会話は小声で、大声を出す歌やカラオケはやめる

飲食の注意

- お茶はペットボトルを配布、水分補給は随時するように呼びかけ
- お菓子・お弁当は袋に入れて持ち帰り、会食はやめる

その他

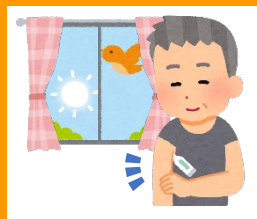
- 体調が悪くなくても、外出が心配な場合は無理せず遠慮せずに休む
- 無理に参加を促さず、本人の思いや心配を受け止めながら活動へ誘う

ポイント

サロンの基本的な感染症対策は、日常生活で気を付けるべきことと大きな差がありません。感染症対策は可能性をゼロにする訳ではなく、あくまでリスクを下げるもので、参加する全員がその意識をもって対策に協力することが必要です。最低限守ってほしい対策として「ふれあい・いきいきサロンの感染症対策」チラシを参照してください。（次ページ）

「新しい生活様式」を取り入れて、感染リスクを低下させましょう！

ふれあい・いきいきサロンの 感 染 症 対 策



体温測定
体調悪ければ
参加は控える



鼻と口を覆う
正しい
マスクの着用



会場の
人が触る場所を
しっかり消毒



受付で
名前と体調
日ごとに記録



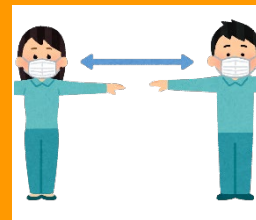
せっけん使って
こまめに
手洗いを



お茶や水分は
個別のものに
安全な水分補給



相向かいの
会話は控えて
飛沫感染予防



手を広げて
触れない程度の
距離をとる



厚生労働省HP
新型コロナウイルス
感染症について



群馬県HP
新型コロナウイルス
感染症対策サイト



前橋市HP
新型コロナウイルス
感染症に関するお知らせ

感染症対策は「マスクをしていれば完璧」という訳ではありません。国や自治体から公表されている一般的な感染症対策を参考に、サロンの実施状況に合わせた内容で対策を実施し、感染リスクを減らしましょう。

(2) 開催方法や活動内容の工夫 (令和2年12月時点で「再開している」と答えたサロン)

規模縮小型サロン

- 参加人数を制限、従来の参加者を2グループに分ける。
- 時間を従来の開催時間より短縮する(30分～1時間程度で解散)
- 自由な時間があると、顔を近づけてお喋りをしたくなり、どうしても感染リスクが高くなってしまいうため、椅子に座ってできるピンシャン体操・ストレッチを主な活動にする。
- お茶やお喋りの時間が無いと手持ち無沙汰になってしまうため、脳トレ・塗り絵・間違い探しなど、それぞれが個別で取り組めるものを配る。
- 換気をして声を出さず、ディスコン・ポッチャなど室内でも楽しめるレクをする。
- 参加者・担い手・地域の方(住職など)による講話
- 昭和の懐かしい映像をみる回想法を取り入れる。

屋外活動型サロン

- 配布物や手土産などを公民館まで取りに来るサロン
(出かける機会をつくり、顔を合わせてお互いに様子を見ることができる。)
- 公民館へキッチンカーを呼び、テイクアウトしたり、感染対策のうえ屋外でそれぞれが食事をできるサロン
- 毎日また毎週、ラジオ体操に集まるサロン
- 毎週曜日を決めて、ウォーキングをするサロン

見守り・訪問型サロン

- サロン参加者宅に訪問し、脳トレ・塗り絵・間違い探しなどのプリントを配布
- ハンドソープ・経口補水液・マスク・エコバッグなど感染対策グッズ・生活グッズを手土産に訪問
- 手作りマスクやお手玉を自宅で製作して楽しめるよう材料を配布する。(作業が出来る人向け)
- サロン担い手のボランティアと民生児童委員が連携して参加者宅を訪問
- 休止期間中にも訪問・配布・電話によるつながりの維持・見守り
- サロン広報誌を作成して配布

(3) 開催できない期間中の代替活動 (令和2年12月時点で「休止中」「再開検討中」のサロン)

見守り活動

- 訪問して安否・体調の確認、配布物等を渡すことを理由に訪問
 - 配布したもの
 - 雑学本、お手紙、感染予防グッズ（マスク・除菌シートなど）、お守り、健康増進にかかわるチラシ、クリスマスプレゼント、誕生日プレゼント、エコバッグ、タオルセット、菓子類、お弁当、お花（花束・花鉢）、とれたての野菜 など。
 - 在宅生活でも「やること」をつくる配布物
 - 塗り絵・脳トレのプリントや冊子、塗り絵用の色鉛筆、間違い探しの本、折り紙と作り方のプリント、スクラッチアートシート、七夕飾りの材料、手作りマスクキット
手作りうちわキット など。
- 従来サロンの実施日に訪問、毎月の自治会清掃活動後に参加者で協力して分担
- 自治会班長に協力依頼をし、広報配布時や集金時に見守りを意識して活動してもらう。
- 電話による見守り（電話訪問）で、安否・体調確認のほか会話と傾聴

その他

- 公民館（自治会館・集会所）の清掃活動へ参加呼びかけ
- 公民館（自治会館・集会所）の花壇へ植花する活動
- 自分の好きな時間に町内をウォーキングする活動
- バスを利用して、サロン参加者に担い手が付き添い、スーパーまで買い物に行く活動
- 参加者ごとに時間を少しずつずらして指定し、指定された時間に参加者が公民館にお弁当を取りに来て、参加者と担い手が少人数で世間話や会話をしてふれあう。
- 参加者から詩や俳句を募集し、サロン広報に掲載して自治会広報などと一緒に回覧する。
- 再開時への準備として備品を購入したり、担い手間で再開時期や対策を協議している。

ポイント

「再開後の開催の仕方」や「休止中の代替活動」はそれぞれのサロンにあったやり方で、担い手と参加者のみなさんが出来るかぎりの活動を行えばよいものです。また、今までのサロン活動は「集まる場」だったため、訪問活動や在宅活動に切り替わると「それはサロンじゃないよ」と思う人もいるかもしれません。本来のサロンを開催する目的（交流・つながり・介護予防）を担い手や参加者がお互いに認識しながら、続けやすく参加しやすい開催方法・代替活動を検討してください。

(1) 取り組んでいる基本的な感染対策

(令和2年12月時点で「再開している」と答えたサロン)

体調確認

- 自宅・会場廊下または入口で検温
- 健康チェック表を用意して体調確認
- 体調不良があれば参加しない
- 「事前問診シート」作成、前日に送付
- 前日にLINEでお誘いのメッセージと体調確認
- 検温と体調確認が終わった人に、受付済みの証明として手首にバンドを付けてもらう

人同士の間隔

- 座席の間隔を空ける
- ソーシャルディスタンス（フィジカルディスタンス）を保つよう呼びかけ

飛沫対策

- 入口でマスク着用を呼びかけ
- 相向かいにならないよう、テーブルは一方方向に向けて配置（教室形式）
- 歌や合奏は中止

消毒

- 手指の消毒
- おもちゃ・会場の消毒
- アルコールティッシュの配布
- 消毒除菌シートをいつでも使えるように設置

飲食の注意

- 水分補給用のペットボトルを配布
- 飲み物提供を中止して各自で用意
- おやつ作り・おやつタイム（サロンからの提供）を中止

会場の換気

- 扇風機2台を窓側で回し換気促進
- 従来活動時より広い部屋を確保
- 親子1組あたりの専有面積を広げる
- 屋外活動への変更

その他

- 出入口が混雑しないよう出口と入口を固定
- 担い手はエプロンとスカーフ着用し乳児に直接触れないようにする
- 家族単位で活動できる内容へ変更

ポイント

基本的な感染症対策に取り組みながら、事前問診シートの作成・LINEを活用した事前受付など、子育てサロンならではの感染対策の内容が見られます。サロンやボランティアさんによって「できること」は異なるので、ボランティア間で相談して必要な対策・できることを整理することが大切です。

(2) 開催方法や活動内容の工夫 (令和2年12月時点で「再開している」と答えたサロン)

規模縮小型サロン

- 参加人数を減らし、参加形態を自由参加から定員制にした。
- 会場の規定で一度に部屋に入れる人数が限られているため、月4回実施するようにした。
- LINEアプリで事前に参加予約をしてもらい、人数を制限しながら実施した。
- 朝にLINEでサロン参加の予約受付をした。
- 参加者のグループ分けをし、時間を区切って参加してもらうようにした。

会場の変更

- 屋外で芝生にシートを敷いて、座卓で工作をした。
- ビデオ通話アプリ「Zoom」を利用してサロンを実施
- 「Zoom」を利用して、講師に県外の医師を迎え、リモートサロンにした。
- 子育てについての講演会を「Zoom」で実施したり「Youtube」で配信した。

(3) 開催できない期間中の代替活動

(令和2年12月時点で「休止中」「再開検討中」のサロン)

全般

- クリスマスイベントとして、ミニツリーを希望する未就学児（世帯）に配布
- 再開時の屋外活動、ビデオ通話アプリの導入を検討

ポイント

サロン開催の工夫は、大きく分けて「規模縮小」と「会場の変更」の二種類があります。

規模縮小は事前予約やグループ分けなどの方法により接触回数・人数を減らすこと、会場の変更は屋外活動により感染リスクを下げたりビデオ通話アプリを用いて接触を避けて実施しています。乳幼児は、マスクをすぐ取ってしまったたり長時間の着用で配慮が必要だったりすることから、規模縮小・会場の変更のような環境面での感染症対策が大切です。

また、子育てサロンは様々な地域から参加される方が多いため、休止中のつながりを維持するのが難しい場合もあります。おたよりの郵送やビデオ通話アプリの活用をするサロンもありますが、無理のないつながり方を検討してください。

事例

コロナ禍における サロン活動と代替活動

事例1 三俣町一丁目「いきいきサロン三俣町傘寿会」(高齢者サロン)

サロン休止中の訪問見守り活動

三俣町一丁目の自治会が主催する「いきいきサロン三俣町傘寿会」は、様々な団体の役員がサロンの担い手となっています。サロン休止中には、高齢者の訪問見守り活動を行い、お弁当やマスクなどを配りながら「つながりの維持」に努めています。民生児童委員だけでなく、元自治会長や現役員など多種多様な人が担い手として協力して、地域福祉活動を展開しているサロンです。



事例2 天川町「サロンフレンド」(高齢者サロン)

三密にならないラジオ体操による健康維持

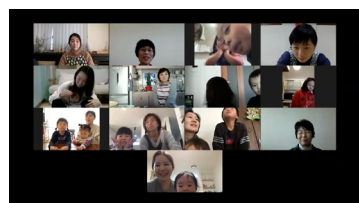
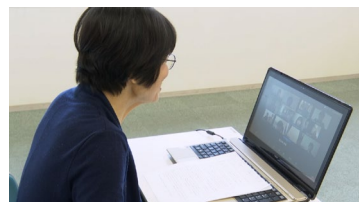
サロンの代表者の方が公園で毎朝ラジオ体操をしていると、朝の散歩をする人たちが自然と集まり、健康維持のためのみんなの日課となった活動です。本来の活動とは異なる内容ですが、毎日お互いの顔が見れて、相互の見守り関係が出来上がっています。屋外のため三密も回避でき、無理のないゆったりとしたつながりが育まれています。



事例3 中部地区「子育てサロンゆるいく」(子育てサロン)

ビデオ通話アプリをつかった新しいサロン

子育てサロンゆるいくは「同じ時間と場所を共有する」ことを大切にしているサロンです。コロナ禍でも何かできることは無いかと考え、ビデオ通話アプリを活用したサロンを始めました。ビデオ通話アプリを使うことで、感染対策をしながら、マスクをせずにお互いの表情を見ながら会話でき、気持ちを前向きにさせてくれます。時代に合った、新しいつながり方のひとつです。



「サロンの事例」 動画で見えてみませんか？

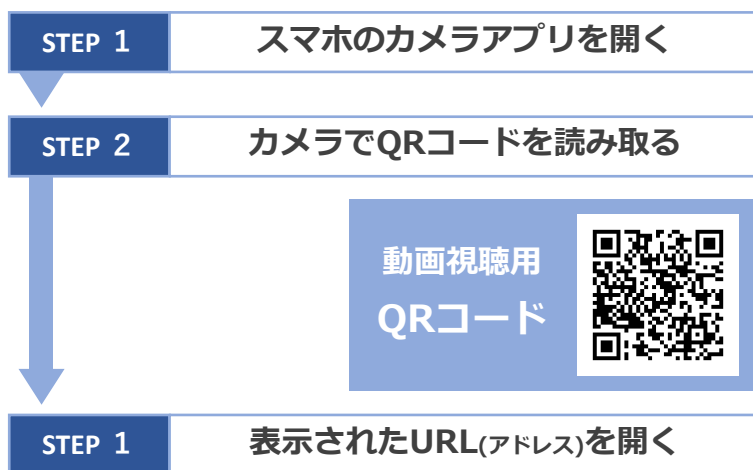
前ページに掲載した3つの事例を動画で視聴することができます。視聴するにはインターネットに接続ができる「パソコン」か「スマートフォン」が必要です。

※ スマートフォンを使用して視聴する場合、パケット通信料または通信容量が消費されます。インターネットやスマートフォンの契約によっては、通信制限が掛かることがあるかもしれませんのでご注意ください。

※ スマートフォンで視聴する場合、動画が掲載されている「Youtube」のアプリダウンロードが必要な場合があります。



スマホで
視聴する場合



パソコンで
視聴する場合



提 案

コロナ禍における これからのサロン活動

見守りの代替活動（高齢者サロン）

ひとりぼっちをつくらない、孤立を防ぐ見守り

コロナ禍では自宅のなかで生活する時間が多く、特に高齢者は家に閉じこもってしまいがちになってしまいます。健康寿命を維持するために重要なのは、社会とのつながりです。孤立や孤独は喫煙や飲酒・運動不足よりも体に害を与えるといわれています。人との関わりをどの程度求めているかは個人差がありますが、「無理なく、さりげなく見守る」活動に取り組んでみませんか？



高齢者サロンで実施する例

- 従来のサロン実施日に担い手で分担して町内高齢者宅に見守り訪問・配食をする。活動終了後は公民館に集まり、見守りに関する情報共有会議を実施する。
- 従来のサロン実施日に担い手で分担して町内高齢者に電話で安否確認をする。

情報発信・共有の代替活動（高齢者サロン・子育てサロン）

おたより・広報誌・おてがみ・アプリ

サロンに参加することが習慣になっていた方は、サロン休止により寂しい思いを抱えているはず。高齢者でも子育て中のお母さんでも、担い手や他の参加者さんの顔が見たくなっているかもしれません。近況を伝えるお便り、トピックを伝える広報誌で情報発信を試みたり、参加者に宛てたお手紙、またはメールやLINEにSNSといったアプリなどを使って連絡を取り合ってみましょう。



高齢者サロンで実施する例

- 参加者や担い手の近況について取材をして、取材記事・写真などを町やサロンの広報誌に掲載する。（掲載を敬遠する方もいるため、場合によって文章と挿絵にするなどアレンジする。）

子育てサロンで実施する例

- 育児を気づかうメッセージを綴ったお手紙を、過去に参加してくれた世帯のお母さん宛てに送る。（SNSやアプリが使えるとより便利。誰かが自分を気にかけてくれる事が励みになるはず。）

提 案

コロナ禍における これからのサロン活動

規模縮小型サロン（高齢者サロン・子育てサロン）

場所を変えずに、時間や人数を制限して

感染症対策において重要な対策のひとつが**三密（密集・密接・密閉）の回避**です。サロンはみんなが集まって肩を寄せ合うような「密を大事に」していた活動ですが、コロナ禍においては密を避けたコンパクトなサロンを目指す必要があります。

例えば時間を半分に短縮したり、担い手と参加者を2グループに分けて開催したり等、感染リスクの低い開催方法に変えてみましょう。



高齢者サロンで実施する例

- 参加者20人・担い手10人(仮定)のサロンを、参加者10人・担い手5人の2グループに分けて、月2回のピンシャン体操や脳トレに取り組む活動に変える。（参加者にも趣旨の理解を呼びかける。）

子育てサロンで実施する例

- 電話などによる事前予約を設けて参加人数をある程度把握、予約時点であまりに参加者数が多くなる場合は高齢者サロン同様日程を分ける。（可能な限り参加を断らず、担い手負担軽減のために）

屋外活動型サロン（高齢者サロン・子育てサロン）

三密を回避しやすい、新たなサロンのかたち

屋外活動は換気をする必要が無く、場所によっては広く間隔をとれるため人を集めやすいという長所があります。ラジオ体操にウォーキング活動といった軽スポーツに限らず、青空の下で交流をする開放的なサロンも楽しいものです。また部屋の広さなどを気にせず、場所に縛られない活動内容を企画できることが魅力です。



高齢者サロンで実施する例

- 公民館や近隣の公園に集まり、ウォーキングやラジオ体操などの活動に変える。（ウォーキングは縦並び厳守など交通安全に配慮、ラジオ体操は担い手少人数で済むので負担減）

子育てサロンで実施する例

- 夏・冬の時期以外に、公園でシートを広げて手遊び・体を動かすレクなどの活動（気温や直射日光への配慮は必要な反面、三密を回避して活動することができる。）

社会福祉法人
前橋市社会福祉協議会

サロン活動や運営に関しては
前橋市社会福祉協議会の地区担当ご相談ください

(TEL) 027-237-1142